

	会議における質問・意見	考え方
1	介護ロボット等の機器試用貸出を利用した施設規模はどのようなものだったか。	従業員数50～100人の規模で施設系サービスの事業所が大半。
2	伴走支援やスポット支援を受けたり、機器試用貸出などを利用した事業所が集まって会議をする機会があったか。	令和6年度はそのような場は無かった。令和7年度以降意見交換の場やネットワーク構築の場を提供していきたい。
3	相談件数が116件あったということであるが、これに対する相談センターの評価はどのようなものか。	他県の同時期開設の窓口に比べると相談件数は多い。 しかし、生産性向上に直接結び付けられる支援や対応が出来ていたかは不明瞭。生産性向上についての本質の理解を深めてもらい、生産性向上の取組に対する意識を高めていくための支援を来年度以降継続して取り組む。
4	相談件数116件のうち障害福祉サービスの件数はどの程度か。	障害福祉サービスの相談件数は17件。
5	長野県の来年度の取組みの中にあるケアプランデータ連携システム導入支援モデル事業についての概要は。	積算上4モデルで予算計上しており今後公募して取組み先を絞る。 現在手上げをしている市町村などもあるため横展開を図っていく。
6	介護ロボット・ICT機器を実際に見たいが、国際福祉機器展に行く機会を得られる方は少ないので、県内での介護ロボット・ICT機器の常設展示を検討してほしい。補助金の申請に関しても窓口を長野県だけでなく相談センターにも設ければ更に活用がしやすくなる。	来年度すぐに開設することは予算上難しいが、他県の状況も参考にしながら今後検討したい。